



## 下阿多古小 150 年のあゆみ

今年 150 周年を迎えた本校は、様々な変遷を経て今に至っています。その変遷を、「阿多古村誌」をもとに少し紹介したいと思います。

### 石神学校の創立 「阿多古村誌」より

明治6年7月15日。当時の政府による教育令の発令に基づいて、石神、上野、中村、瀬林、青谷、渡ヶ島、米沢、日明、西藤平、東藤平、阿寺、芦窪、長沢、懐山、大栗安、神沢、峰神沢、六郎沢、新切、熊の20ヶ村の連合による公立小学校を、中央に位置する石神村に創設することとした。正法寺を仮の校舎にし、浜松県下第2大学区第10番中学区内 166番小学石神学校と称した。これが、下阿多古小学校のはじまりである。その後、同村字ミトウ林にあった演劇場を改築して校舎にすることになり、改修工事に着手した。工事は速やかに進み、同年の10月に盛大な開校式を挙行了。その後、様々な施設、設備が徐々に整備され、教育活動が進められた。交通機関が今のように発展していなかった当時、学区が広く登校が困難な子のために、各村々の寺院に分校が設けられた。分校は石神学校の分教室のようなもので、本校の教員が出かけて行ったり、分校詰め教員を配置したりして指導にあたった。



< 正法寺 >

#### < 学校、分校がおかれた寺院（現在の下阿多古小学校区内） >

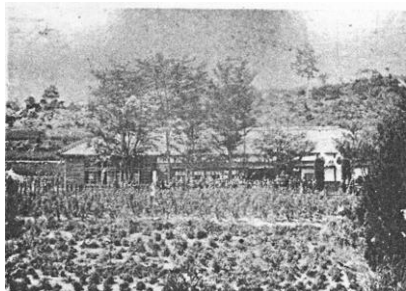
- 石神学校：正法寺（後にミトウ林に移転）
- 上野分校：宗建寺
- 渡ヶ島分校：保寿寺
- 米沢分校：洞光寺
- 瀬林分校：増仙寺
- 青谷分校：投老寺



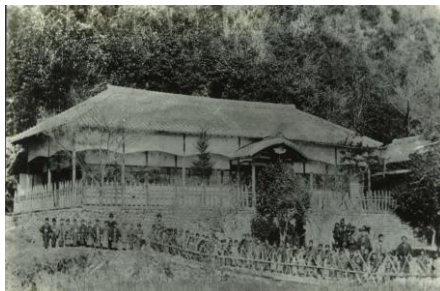
当時の学校での修業年限は4年で、卒業証書も渡されていた。これは、明治40年度まで続けられた。科目は、「修身」「読書」「作文」「習字」「体操」の5科目であって、点数によって成績は表示された。

進級のためには試験があり、合格しないと落第になって原級に留まる事になった。試験は分校に通う子も、すべて石神学校で行われた。交通不便な時代で、学校から遠い人は苦勞して試験を受けた。

その後、幾度かの変遷を経て、明治24年5月には「石神尋常小学校」「渡ヶ島尋常小学校」「青谷尋常小学校」の3校が、今の下阿多古小学校区に設置された。



<石神尋常小学校>



<渡ヶ島尋常小学校>



<青谷尋常小学校>